

呉通信



月刊 No.426
2025 年 3 月 20 日号
KURE BUSINESS NETWORK NEWS

発行：(一社)広島県中小企業家同友会 呉支部
呉 市 中 通 4-4-7 笹 兵 衛 ビル 101
TEL0823-23-9711 FAX0823-23-9141
<https://www.hiroshima.doyu.jp>
編集責任者：広報委員長 白井 健人



2025 年 2 月 18 日（火） 呉支部オープン例会より

理念を語り未来を創る～夢を追い続ける会社、成長の裏側～

令和 6 年度 呉支部方針 《スローガン》

**Human First！新時代へ挑戦～人を生
かす経営の総合実践で、企業づくり・未
来づくり**

㊦ 呉支部会員数 431 名（2025 年 2 月 26 日現在）
取材先募集中！ ご希望の方は広報委員か事務局まで。

《 TOPICS 》

支部例会の報告	2
地区会の報告	3～5
部会の報告	6
委員会の報告	6
香川同友会広報誌より転載	7～8

呉支部 オープン例会を開催！ 経営理念や夢を追いかけることの大切さ

■開催日 2月18日（火）
■会場 呉森沢ホテル
■出席者 80名

呉森沢ホテルにて「呉支部オープン例会」が開催されました。



報告者 (株)サコダ車輛 迫田 宏治 氏

本例会では、(株)サコダ車輛 代表取締役 迫田宏治氏（広島西支部）を報告者としてお招きし、「理念を語り未来を創る」夢を追い続ける会社、成長の裏側」をテーマにご講演いただきました。当日は80名が参

加し、活発な交流が行われました。

台風の影響で延期となっていた例会が今回無事開催できたことを、大変嬉しく思います。

会社経営における理念と実践

迫田氏は28歳で独立し、奥様と二人で(株)サコダ車輛を創業。順風満帆とはいかず、多くの困難に直面しながらも、行動力と実現力で会社を成長させてきました。

同社の経営理念は以下の3つです。
お客様に喜ばれ必要とされる会社を創る。
全社員の物心両面の幸せを実現する。

健全経営の会社を創る。

「儲ける会社でなく、儲かる会社を目指す」との信念のもと、社員・お客様・地域の満足を追求し続けています。

1時間にわたる迫田社長のリアル

講演では、会社の成長の裏側にある挑戦と努力について語られました。

た。特に、地域との関わりを大切にしながら、社員と共に歩む経営姿勢が印象的でした。また、話題のCMについても触れ、ユニークな人柄とともに参加者の関心を集めました。

サコダ車輛はまだまだ発展途上ですが、その可能性は無限大です。

今回の講演を通じて、多くの参加者が経営理念の大切さや、夢を追い続けることの重要性を改めて感じる機会となりました。



今後の展望

本例会の開催にあたり、企画委員会として、今後もこのような貴重な学びの場を提供し、会員企業の発展に寄与していく予定です。

次回の例会も、さらなる学びと交流の場となることを期待しています。集まっていたいただいた皆様、ありがとうございました。

記 (株)サカイ 酒井 康之

(企画委員長・呉中央)



企画委員メンバーと記念写真



開会挨拶 中里支部長

《広西地区会》

人との繋がりを大切に

真摯に取り組む

■開催日 2月18日（火）
■会場 呉森沢ホテル
■出席者 9名

2月、支部例会へ参加しました。コミカルで独特なテレビCMが印象的なサコダ車輛 代表取締役 迫田宏治氏に「理念を語り未来を創る」夢を追い続ける会社、成長の裏側」をご報告いただきました。

1983年創業、1991年に現在の舟入店へ移転。当時は若者向けの車を販売。売れ行きは好調で、展示車輛の倍以上を販売することもあったとのこと。更なる販路拡大のため新店舗の候補地を探したところ、現在本社である佐伯区五日市町石内に新店舗を決める。舟入店より広い店舗のため、それまでの倍以上の売り上げを見込んでいたが1.5倍程度に留まる。その頃の業界紙に知人の会社が軽自動車販売で好調との記事を見て聞き込みと思索をし、軽自動車専門店へとシフト。客層がお客様や女性に変わり売り上げも鰻登りに。ところが同業他社の妬みにより営業の危機に陥る。新店舗が

市街化調整区域で事務所を違法建築で訴えられたためである。迫田氏は直ぐさま取り壊しを決断しバスを改造した移動式事務所やテントで営業を再開する。この時、いつかこの地に立派な事務所を建てることを社員に語る。営業再開後、建屋事務所が無いことによりお客様の反応が悪くなり不調となる。近隣住民等へ相談した結果、協力を得て市へ嘆願し現在では立派な本社も立っている。

報告を聞き、迫田氏が社員は勿論のこと、顧客や地域の方など、人との繋がりを大切にしてきたことが伝わり、真摯に取り組んできたからこそ、現在のサコダ車輛が築けたのだと思いました。



支部例会の様子

（記 瀬戸内広告株 遠矢 典秀）

《広北地区会》

ヒントはもちろん ターニングポイント

■開催日 2月18日（火）
■会場 呉森沢ホテル
■出席者 12名（うちオブザーバー4名）

謹啓 樹木の芽ぶきにうれしさを感ずる季節です。皆様におかれましては、益々のご勇健の段、慶賀の至りに存じます。

さて、今回の勉強会は同友会呉支部合同で、サコダ車輛の迫田社長をお迎えしての会でした。

グループ討論では、なっなんと!! 迫田社長が、私の座っているテーブルに参加して頂き（しかも隣）久々に面接試験を受けた時の気持ちを思い出しました。

迫田社長のCMでの、満面の笑みには、楽しい事・うれしい事だけではなく、つらい事・悲しい事・大変な事・くやしい事・やるせない事・歯がゆい事・どうでもいい事等々いふろんな事が、心（各個人・会社）と言う樽の中で熟成されたもの（注液体ではありません）だと実感させられました。参加出来なかった会員の方達にも、この思いや気付きを共有できましたら幸いです。

尚、この文章には、迫田社長にな

らって、ユーモアたっぷりのダイニングメッセージが、入っております（お気付きの方もおられると思いますが）皆様、見つけてくれたらうれしなあり。

ヒントは、勿論「ターニングポイント」です。

答えは、またの機会に。それでは、寒さも、もう少しの辛抱です。皆様と一緒に、元気で明るい春を迎えましょう。

今日も誰かのハッピーバースデー。日々邁進日々感謝

謹白



支部例会の様子

（記 大西工務店株 大西 浩介）

《呉南地区会》

新しい企業の

あり方を考える

■開催日 2月21日（金）
 ■会場 トウモロビル
 ■出席者 25名

呉南地区会2月例会は、「ローカルゼブラとは？～新しい企業の在り方」と題して、中原建設㈱ 代表取締役 中原佑介氏にご報告頂きました。

中原氏は、呉に帰郷後、西日本豪雨災害をきっかけに竹チップ製造を開始。

放置竹林の危険性・処分される牡蠣いかだの活用を社会意義とし、地域の様々な課題やニーズと組み合わせ、㈱TEGOを立ち上げました。

「手寧な暮らしを提供する」をテーマに、日々の仕事と自分のやりたい事・世の中のニーズ・地域貢献（社会的意義）に対し、その「やりかた」「在り方」について報告して頂きました。

これまでになかった経緯、現状の問題点や悩みや、これからの可能性、ワクワク経営、様々な話が聞けました。

グループ討論では、テーマを「経営者の楽しみや苦しみは何ですか？」とし、4グループを作り行い、各自の経験から様々な話が飛び交い、大いに盛り上がりました。懇親会にも、報告者を含め多数の参加があり、大変盛り上がりました。



報告者を囲んで記念写真（左から3人目が中原氏）

（記 鉄板WAKKA

若本 創平）

《呉中央地区会》

メンバー同士の結束が

高まった研修

■開催日 2月24日（月）～25日（火）
 ■会場 道後グランドホテル
 ■参加者 7名

新年互礼会も終わり、少し落ち着いた2月。呉中央地区会は、松山研修旅行へ行ってきました。

当日は呉には珍しく雪が降り、フェリーに乗っている私たちの頭の中に流れるBGMは「津軽海峡冬景色」でした。

呉中央地区会にも、新しい風というか、毎年新会員さんが入会してくださり、益々活気を上げてきております。そんな折の旅行でしたので、気分も上がり、楽しい時間でもありました。

行きしなのフェリー、旅館においては、総会議案書の進行状況の確認会議をし、旅行のおかげもあり、いつもより力も入り、白熱した会議となりました。これからより一層、呉支部を盛り上げていきましょう！とまた強い絆が生まれました。

夜は皆さんとお風呂に入り、お酒を交わしながら親交を深めました。ベのラーメン屋では意見がぶつかり合う場面もありましたが、それもまたこれからのパワーアップの糧となることだと思っています。帰りしなハブニングが！二つあるはずの部屋の鍵が一つない！全員で一時間ほど探しましたが見つからず……。あきらめて弁償しようとなりがけたその時。ある方のカバンからポロリ（笑）。「仲間と協力し合えば大丈夫！」と最後に確信できましたところでお開きとなりました。



結束は固く・太く！

（記 南ハフリ ハフリ美容室

祝 慎嗣）

《広島地区会》

全ての経験が今に至る

雨垂れ石を穿つ

■開催日 2月12日（水）
 ■会場 オークアリーナ
 ■出席者 13名

広島地区会2月例会では、広島地区会員、旭氏による経営体験報告を行いました。旭氏は2022年6月に事務所を開設され、同年同友会に入会。

呉市川尻町出身で、大学を卒業後、住宅メーカーにて営業職に従事します。時間拘束の多い働き方に問題を抱え、退職とともに帰広。今後の進路に悩んでいる中、家族の勧めもあり司法書士を目指す事に。アルバイトと資格取得の勉強の日々、何度も挫折しそうになりこの時期が一番きつかったと振り返る。5回目の試験で念願の資格取得。そのまま独立する司法書士も少なくないが、遠回りした分、たくさん業務をこなせる方が自信を高められると、広島市の司法書士渡邊事務所（広島中支部所属）へ就職。目論見通り、幅広い業務と仕事量をこなしていく事で、同期の誰よりも司法書士としての対応力を身に付けられたと、自信を深めた。

大きな転機となったのは、広島司法書士会からの一通の募集案内でした。東日本大震災復興に関わって宮城県女川町で司法書士を募集しているというものでした。一念発起して、家族も連れて女川町へ。業務としては、ある程度まちの造成も進み、区画整理が行われたことで発生する地権に関する整理業務でした。色々な人と関わり、業務をこなしていくうちに女川町役場の中で「法律での困り事は旭さんに」という形に。契約延長もありながら充実の約4年間過ごし、広島へ帰ることに。元々独立するつもりもあり、呉市で司法書士事務所を開設。呉市で1番若手として、地元の方の困り事の手助けとなるよう生涯現役で頑張りたいとの意気込みで締めた報告となりました。



（記 東部飲料㈱ 白井健人）

報告者の旭浩平氏

《芸南地区会》

次世代へのバトン

はどうする？

■開催日 2月20日（木）
 ■会場 安浦まちづくりセンター
 ■出席者 14名

今回の例会は、パネルディスカッション方式で行われました。

事業承継に直面する3人の経営者の体験談を通じて、事業承継における一般的な課題や悩み、問題点を共有し、それに対する対策を考える機会となりました。以下の項目について質問し、それぞれの経営者が環境の異なる中で現状や対策について語りました。

- ①事業承継するにあたっての現状と課題
- ②後継者の選定のポイント
- ③後継者の育成に関して
- ④後継者とのコミュニケーション
- ⑤自身の事業承継時のきっかけや反省点
- ⑥事業承継に向けた準備
- ⑦承継後の企業の展望
- ⑧次世代経営者に期待する事やアドバイス

各社は人材の確保や社員教育に課題を抱えつつ、事業承継に適した身内の候補者がいる中で、身内ならではのコミュニケーションの難しさやもどかしさを感じながら、ヒト、モノ、カネなどの準備を進めている

というお話を伺いました。

この不景気な世の中と、人口減少が加速する中で、事業承継を早く行い、それに対する対策を早急に講じる必要があると感じました。事業承継する側も後継者も、お互いに積極的に歩み寄り、意思をしっかりと伝え合うことが不可欠です。事業承継をしたい、してほしいという意思を日々伝えていければと思います。また、先の見通せない世の中において、時代の変化に対応できるような事業の規模や、M&A、廃業といった選択肢も視野に入れつつ、事業持続についての計画をしっかりと考えていく必要があると感じました。



パネルディスカッションの様子

（記 ㈱カーシヨップサカモト

重森 恵介）

《青年部会》

倒産の実態と

事業継続の鍵

■開催日 2月19日（水）
 ■会場 呉森沢ホテル&Zoom
 ■出席者 35名

令和6年度2月例会では、帝国データバンクより講師をお招きし、「帝国データバンクが読み解く企業倒産の実態と企業を見つめて125年、その視点と情報力」と題した講演を実施させていただきました。

講演では、広島県内における過去24年の倒産件数の推移を示していただき、倒産件数が増減する社会的政策的な要因を説明していただきました。また、会社個別の問題としては、特に呉地域においては、経営者の高齢化、後継者不足、人手不足が倒産の要因となっている可能性があるとの見識を示していただきました。

これまで青年部の例会においても、事業承継の問題、人手不足の問題が取り扱われてきました。この度の講演を拝聴し、当該問題意識を持つこと、それに対してどのように対応していくかが、会社や事業を継続

させ、発展させる上で重要な要素の一つであることを改めて認識させられる機会となりました。

また、講師からは、会社経営には困難が生じることもあり、それに立ち向かう経営者を尊敬しており、会社内部や会社外部の仲間と協力しながら会社を大きくしてほしいとのエールを頂きました。

この度の例会をとおして、改めて他の経営者と切磋琢磨し自社を発展させるという中小企業家同友会の活動の意義を確認できたのではないかと思います。



全員で記念写真

（記 呉本通法律事務所

加納 三裕）

《社員教育委員会》

次代を担う

中堅社員研修

■開催日 2月14日（金）
 15日（土）
 ■会場 ビューポートくれ
 ■出席者 12社20名

社員教育委員会では、25歳～35歳の中堅社員を対象に研修会を開催しました。今回は、12社より20名、スタッフとして会員が13名参加されました。

講師は、同友会の経営指針塾や支部例会等の講師でお馴染みの（有）第一コンサルティングオブビジネス丸山博氏でした。

一日目は自己紹介からスタートしました。参加者一人5分の持ち時間で、自己紹介、会社紹介、自分の趣味などをまとめて話します。時おり、司会者からも質問が入り、和やかな雰囲気になりました。

午後からは丸山先生による講義&ワークでした。経営指針塾でもお馴染みの「あなたは何のために働きますか？（人は働くことで社会と関わり、幸せを築いていく）」で始めました。

また、中堅社員に求められるリーダーシップとフォローシップの整

理。マネジメントサイクル（PDCA）、「報告・連絡・相談」の大切さを学びました。

そして、コミュニケーション技術（特に「傾聴」、やる気の科学、世界情勢など、内容は多岐にわたりました）。

一日目修了後は、会場を変えて懇親交流会が開催され、仕事のことやプライベートなことも含めて、大いに交流を深めました。

全体を通して、業種や規模は違いますが、中堅社員（上司がいる、部下がいる）の悩みは共通なものが多かったように感じました。



講師の丸山博氏

（記 事務局 木下）

下記は（一社）香川県中小企業家同友会広報誌「同友かがわ」3月の一部です。
富田肥料(株) 富田文平氏（広島）が、同会の新年互礼会で講演され、特集企画が組まれました。表紙と参加者の感想記事を転載致します。（次ページに続く）

広報委員長 白井 健人

令和7年3月1日発行(毎月1回1日発行)

DOYU KAGAWA

同友かがわ
Monthly bulletin
of the Kagawa Doyukai

3
2025
No.572

一般社団法人 香川県中小企業家同友会

『誰が為に』

2025年 年詞会「第6回青全交研修会」
HOTmessage

事業承継の先に見つけた
人生の道標

表紙写真
講師：富田肥料(株)／代表取締役 富田 文平 氏
(広島同友会)

CONTENTS

ホットメッセージ	1	全国行事	20
会員訪問記	6	会歴30周年を表彰して	21
企業紹介	7	入って良かった同友会	22
我が社の経営理念	9	何がでっきょんな?	23
行事ガイド	10	ズームアップ	24
委員会だより	15	例会だより	25
ピックアップ	17	ハローファミリー	28
トピックス	19	理事会だより	29

青全交 in 香川 PR用画像・動画投稿フォーム

SNSで青全交をPRします!!
素材となります画像、動画(1分程度)を
右のQRより投稿してください!!

※写真を掲載しますので、映り込む人物等の
許可を得たデータのみアップして下さい。
(注：肖像権・著作権)



第53回 青年経営者全国交流会in香川 開催まであと264日 (2025.3.1時点での日数)

[委員会だより]

誰がために経営をするのか？

1月25日、香川県の「THE CHELSEA」にて年詞会を開催しました。この場は、2025年に香川で開催される青年経営者全国交流会(青全交)に向けた重要な研修会でもありました。今回は、昨年の青全交 in 宮崎で最も高い評価を得た分科会の報告者、富田肥料㈱／代表取締役の富田文平氏(広島同友会)をお招きし、基調講演を行っていただきました。

報告テーマは『誰が為に』～事業承継の先に見つけた人生の道標～。富田氏は、ご自身が家業に入社し、先代であるお父様との関係の中で、どのように本当の意味での事業承継を果たしたのかをお話してくださいました。

私はこの報告を三度聞く機会をいただきました。一度目は青全交 in 宮崎で、二度目は年詞会の企画が決まった後の会社訪問で、そして三度目が今回の年詞会でした。

三度目の報告を聞いた時、改めて強く感じたことがあります。それは、何度聞いても心を揺さぶられる瞬間があるということ。そして、それは単なる知識や理論ではなく、「血の通った経営」という経営者として本当に大切なものを教えてくれる報告だったということです。

経営には、利益を生み出すためのドライな仕組みが不可欠です。しかし、それだけでは人も会社も幸せにはなれません。そこに人間らしい、損得では測れない「情」の部分が必要なのではないか。富田氏のお話を聞くたびに、私はこのことを実感しました。そして、経営に温かさを持ちつつ、しっかりと利益を生み出し、会社を成長させていくことこそが、経営者自身の幸せにつながるのだと確信しました。

「誰がために経営をするのか？」この問いに対する私の答えは、この報告を通じて、より明確なものになりました。

青全交 in 香川で心を動かす20の分科会をつくる

この感動を、もっと多くの青年経営者に届けたい。私たちは、2025年の青全交 in 香川で、20の「血の通った」分科会をつくることを目指しています。全国から1,500人の青年経営者を迎え、それぞれが学び、交流し、そして経営の課題を解決しながら、ワクワクする未来へ向かう。そんな場を香川で実現したいのです。

青全交はただの研修の場ではありません。そこには、経営の本質を問い直し、自社の未来、地域の未来を真剣に考える場があります。そこで出会った仲間と共に学びを深め、行動につなげていく。その積み重ねが、全国の中小企業、ひいては地域社会をよりよいものにしていくと信じています。香川での青全交が、参加した皆さんにとっての「経営の転機」となるように。そんな想いを込めて、私たちは準備を進めています。

ぜひ、あなたもこの挑戦に参加しませんか？香川で共に学び、共に成長しましょう！

三宅設備工業㈱

代表取締役専務 三宅 輝征／記

(中讃第2支部)



年詞会に参加して

心を動かす学びと交流の場へ

